

生産性向上支援訓練カリキュラム

機構施設名： 秋田職業能力開発促進センター

実施機関名： 有限会社ネオオリブラ

B. 組織マネジメント	個人情報保護と情報管理
リスクマネジメント	

コースのねらい	企業における個人情報の活用と保護の両立をめざして、個人情報保護法について理解し、セキュリティ技術に関する知識・技能を習得する。
---------	---

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
	1 個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> ・法令の概要と事業者の義務 個人情報保護についての潮流は、1980年9月にOECD理事会にて勧告された「プライバシー保護と個人データの国際流通についてのガイドライン」から始まりました。その後日本国では、2003年に個人情報の保護に関する法律が成立し、2005年より全面施行されています。ここでは法令の概要と事業者の義務について再確認します。 ・法令に対する対応 その後、個人情報の保護に関する法律は、実態に即するよう見直し改正され現在に至っています。また、民間企業が本法令を遵守しつつ日々の事業活動を行うための指針としてガイドラインも示されています。企業として求められる一般的な対応について事例をもとに学びます。 	1.5
	2 プライバシーマークの運用	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーマーク制度の運用 プライバシーマーク制度とは、事業者が、個人情報保護に関する法律を遵守するだけでなく、自主的により高い保護レベルの個人情報保護マネジメントシステムを確立し、運用していること評価し、認証する制度です。ここではその概略について理解を深めます。 ・認定取得の手続きおよび留意点 プライバシーマークの認定取得のためには、個人情報保護マネジメントシステムを確立し、運用するとともに、認証された認定機関に所定の申請手続きを行い審査を受審する必要があります。認証取得までの流れや留意点など、基本的な活動内容を確認します。 	1.5
	3 セキュリティ技術	<ul style="list-style-type: none"> ・会社全体での情報管理の最適化 個人情報の保護をはじめ機密情報など、企業での情報管理の重要性は年々高まる傾向にあります。経営管理の側面からは、自社の事業内容を鑑みた情報管理体制の最適化を見極めることが重要です。自社ではどうあるべきか、一般例で情報管理のイメージを共有しつつ理解を深めます。 ・情報管理の具体的活用方法 会社全体で個人情報保護に関するマネジメントシステムを確立・運用するとともに、必要に応じ情報管理のセキュリティ技術を活用しサイバー攻撃などに備えることもポイントになります。ここではセキュリティ技術の活用例などから自社での展開方法について視点を広げます。 	1.5
	演習	個人情報保護に係るQ&Aを参考にグループディスカッションでイメージを共有します。	0.5
	演習	自社の個人情報保護マネジメントシステムの概略イメージについて全体討議します。	0.5
	演習	個人情報の流出が発生した場合の自社の対応と再発防止策を議論します。	0.5
		合計時間	6.0